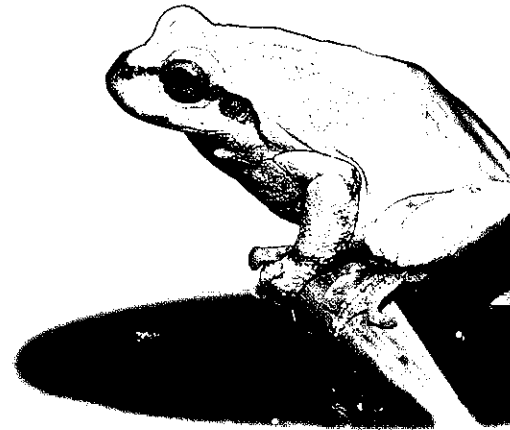
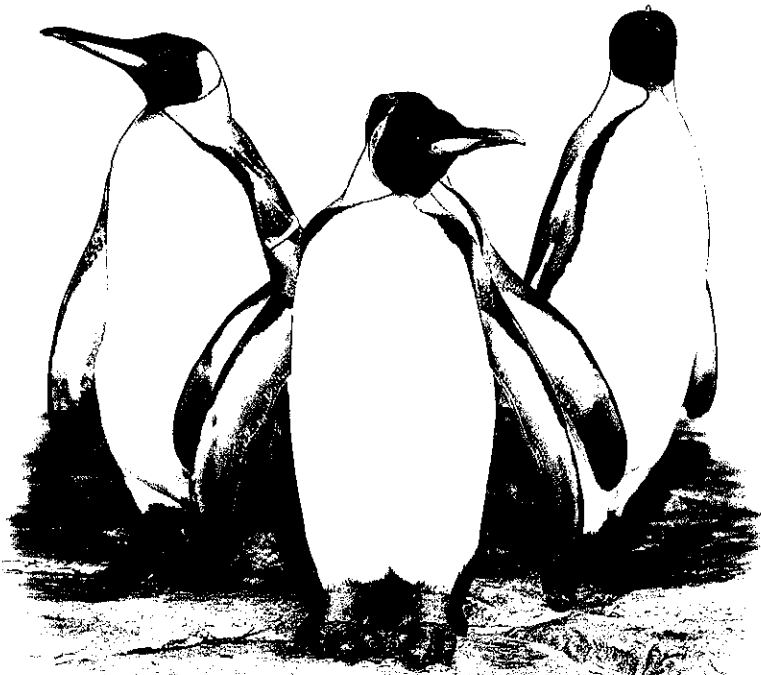


社団法人 日本動物園水族館協会

—その組織と活動—



動物園・水族館の 未来をみつめる



ごあいさつ

社団法人
日本動物園水族館協会総裁
秋篠宮文仁



創立70周年にあたり

本年、社団法人日本動物園水族館協会が、創立70周年という節目の年を迎えます。このことは、本協会関係者の一人として大きな喜びです。同時に、20年以上にわたって、我が国の動物園ならびに水族館に携わることができたことを大変嬉しく思っております。

私は幼少の頃より動物に関心がありました。さまざまな動物を飼育したり、動物園や水族館を訪れたりすることを楽しみにしておりましたが、当時の動物園や水族館は、レジャー施設としての印象が強かったように感じます。もちろん、動物園や水族館がそのように考えていたということではなく、その時代の社会が動物園・水族館は遊び場のひとつであって、児童・生徒にとっての学びの場所ではないという認識をもっていたのではないかと思います。

しかるに、縁あって本協会に関わるようになって、そのようなイメージが大きく変わったことを今でも鮮明に記憶しております。学習の場であるとともに飼育下ならではの動物についての研究、展示技術の工夫、そして種の保存事業など、多岐にわたる取り組みに、動物園ならびに水族館の社会的役割を再認識いたしました。そして現在でも、それぞれの園館が上述した事業を遂行すべく、弛みない努力を重ねていることは、真に喜ばしいことです。

このたびの70周年をひとつの契機として、日本動物園水族館協会ならびに加盟している動物園・水族館の各園館がますます発展していくよう、力を尽くしたく思います。

社団法人
日本動物園水族館協会会長
山本茂行



パンフレットの発行にあたって

2009年は当協会の創立70周年にあたります。1939年(昭和14年)11月17日に日本動物園協会として発足し、翌年6月に名称を日本動物園水族館協会と改め19園館の動物園・水族館の任意団体としてスタートしました。戦後は平和を象徴する施設として日本各地に動物園・水族館が開設され、1965年の会員数は88に増え、社団法人として認められました。発足から70年後の今日、加盟園館は動物園89、水族館67の156園館に発展しています。

1991年に加盟園館の年間利用者は9689万人と1億人に迫る勢いでしたが、1998年には6000万人台に減少しました。ここ数年、再び動物園・水族館は人気を戻し、年間利用者数も7500万人台に回復しています。70周年を記念し、動物園・水族館に対する国民の一層の理解を得るため4月19日を「飼育の日」として制定いたしました。

70周年にあたり、わが国の動物園と水族館の状況を紹介するために、このパンフレットを発行しました。日本動物園水族館協会の活動へのより一層の理解を深めるものとなれば幸いに存じます。また、国内外に広く活動を紹介するため英文の別冊も発行いたしますので、ご利用いただきたいと存じます。

協会の沿革と現況

沿革

昭和14年11月17日	任意団体として発足。当時の会員は16動物園と3水族館の19園館
昭和21年5月	戦後初めての総会開催。戦後の荒廃した動物園、水族館の復興に尽力
昭和28年～31年	動物園技術者研究会並びに水族館技術者研究会を発足
昭和32年	繁殖動物の表彰(繁殖賞)を実施
昭和34年	学術刊行物「動物園水族館雑誌」を発行開始
昭和40年11月22日	文部社会教育局(現在の文部科学省生涯学習政策局)所管の社団法人として設立許可。当時の会員は55動物園と33水族館の88園館
昭和46年～49年	飼育技師資格認定試験の実施及び飼育ハンドブックを発行開始
昭和51年	動物愛護の標語を募集し、動物愛護週間の中央行事に参加開始
昭和56年	ワシントン条約の緊急保護動物の寄託管理の開始
昭和59年	動物情報センター設置基金の募金を開始
昭和61年	古賀賞の制定 CBSG(飼育下繁殖専門家グループ 現在の野生動物保全繁殖専門家グループ)に参加
昭和63年5月25日	秋篠宮文仁親王殿下を総裁に推戴
昭和63年	種保存委員会の発足及び倫理要綱の制定
平成5年	世界動物園機構(WZO 現在の世界動物園水族館協会 WAZA)に加盟
平成9年～10年	協会ホームページ運用開始及びネットワーク化の開始
平成12年	野生動物保護募金事業の開始
平成13年	全国生涯学習フェスティバルに参加開始 野生動物保護活動への助成開始
平成20年	国際カエル年事業を実施

目的

日本における動物園、水族館等の関係者の協力により動物園、水族館事業の発展振興を図り、もって文化の発展と科学技術の振興に寄与することを目的としています。

事業

- 1 動物園、水族館についての調査研究、資料等の発行事業
- 2 希少動物の保護増殖等に関する種の保存事業
- 3 野生動物保護募金事業
- 4 飼育技術者の資質向上に関する事業
- 5 動物園、水族館情報ネットワーク事業
- 6 動物愛護に関する諸行事の実施
- 7 動物園、水族館に関する技術・情報の一般への啓蒙普及
- 8 ワシントン条約緊急保護動物収容受託事業
- 9 国際交流事業
- 10 その他事業

組織

1 総裁 ▶秋篠宮文仁親王殿下

2 会員 ▶正会員:156名(動物園89園、水族館67館)
▶個人会員:0名
▶維持会員:50団体

3 議決機関

- ▶総会:年1回開催、正会員で構成
- ▶理事会:理事17名で構成し、年2～3回開催

4 執行機関[会長、専務理事、(理事会)]

- ▶事務局:参与(非常勤)、事務局長、職員3名
- ▶動物情報センター:動物園・水族館および希少動物保護増殖に関する情報資料の収集と活用に関する事業実施
- ▶地域別会議:各ブロックに代表理事をおき、ブロック内協議会、研修会、研究会等を開催(北海道ブロック・関東東北ブロック・中部ブロック・近畿ブロック・中国四国ブロック・九州沖縄ブロック)
- ▶運営委員会:担当理事、部長、部員をおき事業計画に基づく専門事項の計画、執行を担当
- ▶総務部(5名):事業運営、他部に属しない事項に関すること
- ▶教育部(8名):園館職員の資質の向上並びに一般に対する普及啓発活動に関すること
- ▶安全衛生部(6名):園館職員の安全衛生対策などに関すること
- ▶情報部(5名):国際交流及び情報ネットワーク事業などに関すること
- ▶種保存委員会:会長、委員会事務局長など19名で構成
- ▶倫理委員会:会長、副会長、ブロック代表理事など11名で構成
- ▶情報センター運営委員会:会長、副会長、ブロック選出の委員など10名で構成
- ▶飼育技師資格認定委員会:会長、委員6名、事務局8名(教育部員が兼務)で構成
- ▶飼育ハンドブック編集委員会:会長、教育部担当理事、教育部員など13名で構成
- ▶動物園水族館雑誌編集委員会:会長、動物園・水族館関係者、学識経験者などで構成
- ▶野生動物保護募金選考会議:副会長、運営委員会及び種保存委員会の代表など7名で構成

5 諮問機関

- ▶名誉顧問(1名):特に永年にわたり当協会の運営に特別の功労があった者で、理事会の総意をもって承認した者
- ▶顧問(2名):専門知識を有し、理事会が推薦した者
- ▶会友(85名):園館長歴10年以上、及び特別な功労のあった者で、理事会が承認した者

6 監査機関

- ▶監事(2名):動物園から1名、水族館から1名就任

1. 野生生物の保全活動

(社) 日本動物園水族館協会（略称：日動水協）は動物園水族館事業の発展振興を通じて文化の発展と科学技術の振興に寄与することを目的として様々な活動を行っていますが、中でも野生生物保全の活動は重要な位置づけとなっています。日動水協の野生生物保全の活動には、種保存委員会活動、野生動物保護募金事業、支援事業などがあります。

種保存委員会の活動

1988年（昭和63年）、日動水協は希少動物の保全、増殖事業を協会の重要な事業と位置づけ、理事会の補助機関として種保存委員会を設置しました。

種保存委員会は日動水協の中で種保存事業の根幹を成すものであり、主な事業は保存すべき種の決定、その種類ごとの繁殖計画の作成、進行管理、種保存会議の運営などです。

種保存委員会は保存が必要な種として145種を決めています（平成21年度当初）。そのうち、魚類を除く種で、国内血統登録を行っています。この中に含まれるニホンカモシカ、タンチョウ、コウノトリ、マナヅル、ナベヅルの5種は、日本が担当する国際血統登録種です。145種には、種別調整者が置かれ、飼育下での遺伝子の多様性を維持する個体異動の調整を行いながら、長期的な繁殖を推進しています。

野生動物保護募金事業と支援事業

1997年（平成9年）のナホトカ号の重油流出事故に伴う海鳥保護の取り組みを契機として、動物の救護、保護活動を行うこととしました。2000年（平成12年）から野生動物保護のための募金（通称ペンギン募金）を開始し翌年から助成事業を開始しています。平成20年度は、「チーターの自然繁殖活性化計画における実施効果の繁殖生理学的調査」、「絶滅危惧ネコ科動物など希少野生動物

の採精、精液の冷凍保存および人工繁殖に関する研究2008」、「エゾタヌキの繁殖生理に関する生態研究」、「ソウの繁殖機能とフラットライニング発生状況の全国的調査」などに助成を行いました。



スナメリ母子



トキの求愛

海外との連携

野生動物の保全は地球規模の問題であり、生息地の保全など海外と連携して活動を進めなければなりません。

また飼育下の保全活動でも動物園、水族館で飼育展示している種類には多くの外国産の動物が含まれています。近年、多くの種類が保護対象となり入手が困難になっています。こうした事情から外国の動物園、水族館と協力していく必要が生じています。日動水協ではWAZA（世界動物園水族館協会）、CBSG（野生生物保全繁殖専門家グループ）の総会への出席をはじめ、最近ではアジアの動物園、水族館との連携を強めるために中国動物園協会との友好提携、SEAZA（東南アジア動物園協会）の総会への参加、インド国際種保存会議への参加などを実施しています。

繁殖賞、古賀賞 技術賞

日動水協では動物園、水族館の保全活動を顕彰するために表彰制度を設けています。

繁殖賞は飼育下での野生動物の繁殖に成功し、それがその種におけるわが国最初の繁殖であった場合表彰しています。

古賀賞は元会長の古賀忠道博士の功績を記念すると共に寄付金により運営されています。飼育下において非常に繁殖が困難で世界的にも例のない種の繁殖や数世代にわたり繁殖を成功させている種などに贈られています。

技術賞は動物園水族館雑誌に投稿された報告論文を審査対象として特に優れた論文を表彰しています。

2. 研究・教育活動

野生動物の飼育繁殖技術向上や飼育観察による生態解明は生息地・生息地外での種の保存に大いに役立ちます。また多様な生物を保全していくことの重要性を来園館者・一般によりうまく伝えることも大切なことです。

日動水協では飼育・教育スタッフの技術的向上を目指して様々な研究会、教育活動を実施しています。

研究会の開催

日動水協が実施している研究会は、全国規模で開催される、動物園技術者研究会と水族館技術者研究会および海獣技術者研究会が代表的なものです。また、種の保存事業の一環としてゾウ会議を実施しています。他に地域ブロックごとに開催される研究会から構成されています。また、動物園水族館における教育普及事業の推進を目的として参加型研究会（ワークショップ）を開催しています。これらの研究会は動物園・水族館で働く職員の資質の向上ばかりでなく、相互の交流にも役立っています。



アジアゾウ

動物園・水族館雑誌の発行

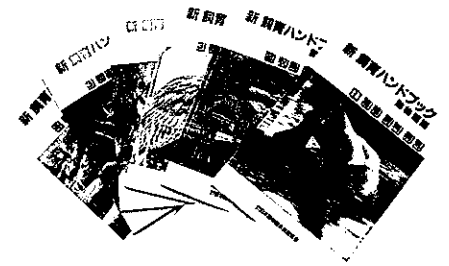
動物園・水族館雑誌は、動物園、水族館で日常の飼育展示業務、教育普及業務を通じて得た知見等を取りまとめた論文を主体に、全国規模で行う調査研究報告、短報、各研究会での発表抄録などから構成されています。年3回から4回発行しています。



ニシローランドゴリラ

飼育ハンドブックの発行

会員で働く職員の知識、技術の向上の助けとするために飼育ハンドブックの発行をしています。動物園編、水族館編にわけて発行しています。また、各編では4テーマに分けて分冊を発行しています。



資料収集

動物園水族館で扱う生物学的情報は非常に重要となっています。日動水協では国内はもとより、広く海外までの情報収集に当たっています。

飼育技師認定試験の実施

会員の動物園・水族館で働く、飼育関係の職員に対して一定程度の技術に達していることを認定するために飼育技師認定試験を年に1回実施しています。今後は国家試験の認定を受けられるようにレベルアップを図る必要があります。

日本の動物園と水族館

動物園の部

北海道

- ① 札幌市円山動物園
- ② 旭川市旭山動物園
- ③ おびひろ動物園
- ④ のほりべつクマ牧場
- ⑤ 釧路市動物園

東北

- ⑥ 秋田市大森山動物園
- ⑦ 盛岡市動物公園
- ⑧ 仙台市八木山動物公園

関東

- ⑨ 宇都宮動物園
- ⑩ 那須どうぶつ王国
- ⑪ 桐生が岡動物園
- ⑫ 群馬サファリパーク
- ⑬ 日立市かみね動物園
- ⑭ 埼玉県大宮公園小動物園
- ⑮ 埼玉県こども動物自然公園
管理事務所
- ⑯ 東武動物公園
- ⑰ 狭山市立智光山公園こども動物園
- ⑱ 東京都恩賜上野動物園
- ⑲ 東京都多摩動物公園
- ⑳ 井の頭自然文化園
- ㉑ 東京都立大島公園
- ㉒ 羽村市動物公園
- ㉓ 江戸川区自然動物園
- ㉔ 足立区生物園
- ㉕ 千葉市動物公園
- ㉖ 市川市動植物園
- ㉗ 市原ぞうの国
- ㉘ 川崎市夢見ヶ崎動物公園
- ㉙ 横浜市立野毛山動物園
- ㉚ 横浜市立金沢動物園
- ㉛ 横浜市立よこはま動物園
- ㉜ 小田原動物園

北陸

- ⑳ 富山市ファミリーパーク
- ㉑ 高岡古城公園動物園
- ㉒ いしかわ動物園
- ㉓ 鯖江市西山動物園

中部

- ⑳ 甲府市遊亀公園附属動物園
- ㉑ 小諸市動物園
- ㉒ 須坂市動物園
- ㉓ 長野市茶臼山動物園
- ㉔ 飯田市立動物園
- ㉕ 市立大町山岳博物館
- ㉖ 三島市楽寿園
- ㉗ 富士自然動物公園
- ㉘ 伊豆アニマルキングダム
- ㉙ 伊豆シャボテン公園
- ㉚ 熱川バナナ・ワニ園
- ㉛ 静岡市立日本平動物園
- ㉜ 浜松市動物園
- ㉝ 豊橋総合動植物公園
- ㉞ 名古屋市東山動物園
- ㉟ (財)日本モンキーセンター
- ㊱ 豊田市鞍ヶ池公園
- ㊲ 岡崎市東公園動物園

近畿

- ㊳ 京都市動物園
- ㊴ 和歌山公園動物園
- ㊵ アドベンチャーワールド
- ㊶ 橿原市昆虫館
- ㊷ みさき公園
- ㊸ 大阪市天王寺動植物公園
事務所
- ㊹ 五月山動物園
- ㊺ 神戸市立王子動物園
- ㊻ 姫路市立動物園
- ㊼ 姫路セントラルパーク
- ㊽ 淡路ファームパーク
イングランドの丘動物園

中国・四国

- ㊾ (株)池田動物園
- ㊿ 林原類人猿研究センター
- ㉑ とくしま動物園
- ㉒ 愛媛県立とべ動物園
- ㉓ わんぱくこうち
アニマルランド
- ㉔ 高知県立のいち動物公園
- ㉕ 広島市安佐動物公園
- ㉖ 福山市立動物園
- ㉗ 周南市徳山動物園
- ㉘ 秋吉台自然動物公園
- ㉙ (財)宇部市常盤遊園協会

九州・沖縄

- ㉚ 到津の森公園
- ㉛ 福岡市動物園
- ㉜ 大牟田市動物園
- ㉝ (財)久留米市鳥類センター
- ㉞ 海の中道海浜公園動物の森
- ㉟ 佐世保市亜熱帯動植物園
- ㊱ 長崎バイオパーク
- ㊲ 九州自然動物公園
- ㊳ 熊本市動植物園
- ㊴ 宮崎市フェニックス自然動物園
- ㊵ 鹿児島市平川動物公園
- ㊶ 沖縄こども未来ゾーン
- ㊷ ネオ・パーク オキナワ

水族館の部

北海道

- ① 小樽水族館
- ② 稚内市立ノシャップ寒流水族館
- ③ サンピアザ水族館
- ④ 登別マリパークニクス
- ⑤ 千歳サケのふるさと館

東北

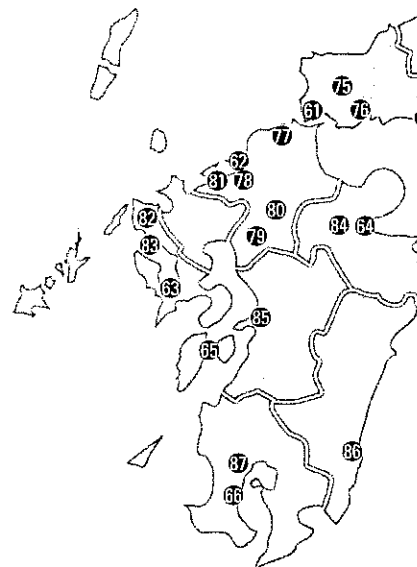
- ⑥ 青森県営浅虫水族館
- ⑦ 男鹿水族館GAO
- ⑧ マリンピア松島水族館
- ⑨ 鶴岡市立加茂水族館
- ⑩ ふくしま海洋科学館

関東

- ⑪ 栃木県なかがわ水遊園
- ⑫ アクアワールド茨城県
大洗水族館
- ⑬ 犬吠埼マリパーク
- ⑭ 鴨川シーワールド
- ⑮ さいたま水族園
- ⑯ サンシャイン国際水族館
- ⑰ 東京都葛西臨海水族園
- ⑱ しながわ水族館
- ⑲ エプソン品川アクアスタジアム
- ⑳ よみうりランドアシカ館
- ㉑ (株)京急油壺マリパーク
- ㉒ 新江ノ島水族館
- ㉓ 横浜・八景島シーパラダイス

北陸

- ① 新潟市水族館マリニア
日本海
- ② 上越市立水族博物館
- ③ 長岡市寺泊水族博物館



- ③② 魚津水族館
- ③③ のとしま臨海公園水族館
- ③④ 越前松島水族館

中部

- ②⑦ 山梨県立富士市湧水の里水族館
- ②⑧ 伊豆三津シーパラダイス
- ②⑨ 下田海中水族館
- ③⑩ 伊豆アンティランド
- ③⑪ 東海大学海洋科学博物館
- ③⑫ 蓼科アミューズメント水族館
- ③⑬ 岐阜県世界淡水魚園水族館
- ③⑭ 蒲郡市竹島水族館
- ③⑮ 南知多ビーチランド
- ③⑯ 碧南海浜水族館
- ④⑩ 名古屋港水族館

近畿

- ④① 滋賀県立琵琶湖博物館
- ④② 宮津エネルギー研究所水族館
- ④③ 鳥羽水族館
- ④④ 志摩マリンランド
- ④⑤ 二見シーパラダイス
- ④⑥ 京都大学白浜水族館
- ④⑦ 太地町立くじらの博物館
- ④⑧ 串本海中公園センター
- ④⑨ 大阪・海遊館
- ⑤⑩ 水道記念館

- ⑤① 神戸市立須磨海浜水族園
- ⑤② 城崎マリンワールド
- ⑤③ 姫路市立水族館

中国・四国

- ⑤④ 島根県立しまね海洋館
- ⑤⑤ 島根県立宍道湖自然館
- ⑤⑥ 市立玉野海洋博物館
- ⑤⑦ 社団法人 桂浜水族館
- ⑤⑧ 高知県立足摺海洋館
- ⑤⑨ 虹の森公園おさかな館
- ⑤⑩ 宮島水族館
- ⑤⑪ 下関市立しものせき水族館

九州・沖縄

- ⑤⑫ 海の中道海洋生態科学館
- ⑤⑬ 長崎ペンギン水族館
- ⑤⑭ 大分マリーナパレス水族館「うみたまご」
- ⑤⑮ 天草いるかワールド
- ⑤⑯ かごしま水族館
- ⑤⑰ 沖縄美ら海水族館





社団法人 日本動物園水族館協会 — その組織と活動 —
動物園・水族館の未来をみつめる

発行年月日 平成22年(2010年)10月1日

発行者 山本茂行

発行所 社団法人 日本動物園水族館協会
〒110-8567 東京都台東区台東4-23-10 ヴェラハイツ御徒町402
TEL 03-3837-0211/FAX 03-3837-1231
URL <http://www.jazga.or.jp/>